青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

令和5年度「安全で充実した沢活動実施のための指導者講習会」報告書

１．趣　旨

沢活動を実施する団体の指導者を対象として講習会を実施することで、安全に、そしてねらいが達成できる沢活動の実施をめざす。

２．事業の概要

（１）　**参加対象及び人数**　　沢活動を実施する団体の指導者　各回２０名程度

（２）　**期日および参加状況**　原則として各団体３名以内

回数	日程1	日程2	日程3	コース	男	女	参加者数
第1回	5月13日	土	午前	上流コース	12	9	21
第2回	5月13日	土	午後	下流コース	7	9	16
第3回	5月27日	土	午前	上流コース	15	13	28
第4回	5月27日	土	午後	下流コース	4	4	8
第5回	5月28日	日	午前	上流コース	2	1	3
第6回	5月28日	日	午後	下流コース			
第7回	6月2日	金	午前	上流コース	6	8	14
第8回	6月10日	土	午前	上流コース	10	8	18
第9回	6月10日	土	午後	下流コース	11	7	18
第10回	6月11日	日	午前	上流コース	2	1	3
第11回	6月11日	日	午後	下流コース	1		1
第12回	6月24日	土	午前	上流コース	6	3	9
第13回	6月24日	土	午後	下流コース			
第14回	6月30日	金	午前	上流コース	4	4	8
第15回	6月30日	金	午後	下流コース	4	2	6
第16回	7月22日	土	午前	上流コース	4	2	6
第17回	7月22日	土	午後	下流コース	8	7	15
第18回	7月28日	金	午前	上流コース	12	4	16
第19回	8月19日	土	午前	上流コース	4	1	5
第20回	8月19日	土	午後	下流コース	3	1	4
	合計				115	84	199

３．企画運営のポイント

（１）　安全で充実した沢活動実施のために、沢活動における安全への配慮や危険箇所、技術について、実際のコースをたどりながら説明する。また、自然の家で推進している体験学習法や沢での様々な活動について情報提供する。

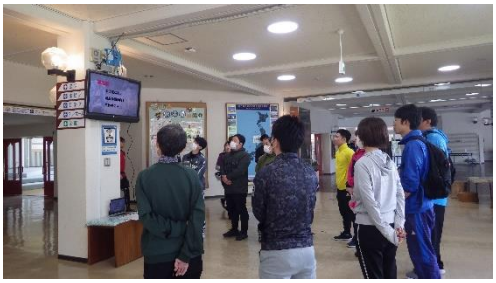
（２）　上流コースと下流コースに分け、当所の沢活動の全コースを網羅したプログラムを実施している。

（３）　指導者自身が参加者の立場になって楽しむことで、沢活動の楽しさを各利用団体の参加者に伝えられるようにする。

４．日　程

	午前の部	午後の部
・集合・受付開始・着替え	８：４０～	１３：００～
・沢活動（講習及び実地踏査）	９：００～１２：３０	１３：３０～１６：００
・アンケート記入・資料配布	１２：３０	１６：００

５．主な活動内容



動画を視聴し沢活動のねらいを確認

安全装備の確認

実際のコースを体験

指導者自身も楽しむ

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：９８．８％　　やや満足：１．２％　　やや不満：０％　　不満：０％

（２）参加者の声

・丁寧に説明していただき実際に子ども達を引率するときのイメージをもつことができました。

・安全に活動することだけでなく、子供たちが楽しく活動するためのアドバイスなどもいただけたことは、計画の見直しや目標設定に大いに生かしていけると感じました。

・毎年参加するが、地形の変化や流木等でコースが変わったりするので、実施する年は必ず毎回参加しなければいけないと改めて思った。慣れているからと言って沢講習会に参加しないというケースは絶対ないようにしたい。

（３）成果

・今年度より、講習会の初めに沢活動のねらいをまとめた動画を視聴する時間を設けた。参加者に、安全で充実した沢活動を実施するためのポイントを意識して講習会に参加していただくことができた。

・各回で新たに気付いた注意事項を担当者間で共有するシートを作成し、講習会での指導に活かすことができた。

・参加人数が多い回は、２班に分け、さらに担当を１人増やしたことで、参加者の安全な活動に配慮することができた。

（４）課題

・９名の担当者が関わっているため、各回の指導内容に若干の違いが生じている。講習会の開催前に、担当全員で実際に沢を歩きながら指導内容について共通理解を図る機会を設けたい。

・沢活動を行う際に、手袋がなかったり長袖を着用していなかったりするなど服装に不備があった団体や、活動後のライフジャケットやヘルメットの整頓が不十分だった団体があったので、安全への配慮と公共施設の利用についてのモラル等について、講習会において周知徹底させたい。

・講習会に参加できない団体には、独自で実地踏査を行っていただいている。その場合は、職員は帯同しないが、講習会の内容を端的に伝達、説明するための手立てが必要である。

担当：企画指導専門職　菊池　恵理